© じほう 2015

薬局・薬剤師のためのニュースメディア
PHARMACY NEWSBREAK
株式会社 じほう

この通信は会員が直接利用される以外、コピー等による第三者への提供は固くお断りいたします

第9回 日本薬局学会 学術総会

■クオール薬局西那須野店

電子お薬手帳、施設や家族との情報共有に活用

クオール薬局西那須野店（栃木県那須塩原市）の村井加代子氏は26日の日本薬局学会学術総会の一般演題で、電子お薬手帳を活用し、施設入所患者の服薬情報などを施設の看護師や患者家族と共有する取り組みを報告した。

同店では、2014年3月から日本保険薬局協会が開発した電子お薬手帳の運用を開始。利用を拡大する方策の一つとして、電子お薬手帳を薬局と施設看護師、患者家族の間での情報共有ツールとして活用する取り組みを導入当初から行っているという。

具体的には、電子お薬手帳の利用登録を薬局が代理で行うことや、登録した情報を使って施設看護師と薬局でデータを共有することについて、患者の家族から許可を得た上で薬局で登録。電子お薬手帳を利用するためのカードは施設の看護師に管理してもらい、薬局ではカードのコピーを保管する。これにより、薬局と施設看護師、患者家族がそれぞれ患者の情報を見られるようにした。

●健診や検査データも共有

協会の電子お薬手帳には、処方された医薬品の添付文書を見られる機能も付いており、情報共有に活用することで施設看護師は必要な時に手間をかけずに薬剤情報を確認できるようになったという。さらに、健診や検査の結果を入力できる機能を使い、施設看護師と薬局の間で検査値を共有する取り組みも行っている。

同薬局ではさらに、在宅患者に関する多職種との情報共有ツールとして、電子お薬手帳を活用する試行も始めた。医薬品に関する情報を看護師やケアマネジャーらと共有するだけでなく、日々の体重や血圧の測定結果、服薬状況や食事などを記録できる「健康日誌」の機能を使い、看護師やケアマネに入力してもらうことで自宅での患者の様子を薬局が知ることもできるという。